

申告書にプリントされている汚染負荷量賦課金番号を記入してください。また、工場・事業場名(会社名も併せて)を記入してください。

1年間のSOx排出量は月別に算定してください。

実際に使用している燃原料の名称を記入し、その燃原料のコードを複写様式の下欄コード表燃原料コード表(手引P.7)を参照し、記入してください。

使用する燃原料の該当する単位に○をしてください。液体はℓ、固体はkg、気体はm³N又はkgで表示し、kℓやtは使用しないでください。

密度及び硫黄分はA様式に準じて記入してください。

機 構 用

平成××年度 汚染負荷量賦課金
年間排出量の算定の過程を示す書類 (B)

①賦課金番号: 00233010 工場・事業場名: (株)白神製紙 秋田工場 ②No.: B-01 枚目 / 05 全枚数

1月、3月…と奇数月の測定だった場合を前提としています。

④脱硫の有無 (該当する数字を○で囲んでください。)

1	無
2	排煙脱硫
③	集じん等脱硫
④	製品等脱硫

③施設名: 1号 黒液回収ボイラー

⑤年月	⑥燃原料の別	⑦使用量	⑧密度	⑨含有硫黄分	⑩補正排出ガス量	⑪補正SOx濃度	⑫稼働時間	⑬SOx排出量	
△△年	名称	コード	単位	g/cm ³	%	m ³ N/h	ppm	h	m ³ N
1月	黒液	22	ℓ						
2月	黒液	22	ℓ						
3月	黒液	22	ℓ						
4月	黒液	22	ℓ						
5月	黒液	22	ℓ						
6月	黒液	22	ℓ						
7月	黒液	22	ℓ						
8月	黒液	22	ℓ						
9月	黒液	22	ℓ						
10月	黒液	22	ℓ						
11月	黒液	22	ℓ						
12月	黒液	22	ℓ						
年間計	黒液	22	ℓ						

(「事業者用」裏面の注意をよく読んで記入してください。)

分母側にこの様式の全使用枚数と、分子側に何枚目(通し番号)であるかを記入してください。この例の場合は、B様式の全使用枚数が5枚(5部)で、通しナンバーは1枚目となっています。なお、複写式の様式は3枚一組になっているので、1部=1枚とカウントしてください。

脱硫の有無について、該当する番号に○をしてください。

b様式で算定した補正排出ガス量を記入してください。排出ガス測定を毎月ではなく、2か月に1回行っている場合は、測定した月の補正排出ガス量及び補正SOx濃度を次の測定月のまで適用してください。1月に測定した補正排出ガス量が68,480m³N/h、補正SOx濃度が156ppmの場合、2月のSOx排出量は、1月測定値と2月の稼働時間(672h)を使って求めてください。

1か月間に稼働した稼働時間を記入してください。

各月のSOx排出量は、小数点以下2けた目を切り捨て、1けたまでを記入してください。1月のSOx排出量は、1月の測定値を使用し、b様式で算出した補正排出ガス量及び補正SOx濃度と1月の施設の稼働時間で算定します。2月のSOx排出量は、1月のb様式で算出した補正排出ガス量及び補正SOx濃度と2月の施設の稼働時間で算定します。